

参議院党派別議席数

	今 回	非改選	合 計
自 民	39	62	101
立 民	22	16	38
国 民	17	5	22
参 政	14	1	15
公 明	8	13	21
維 新	7	12	19
共 産	3	4	7
れいわ	3	3	6
保 守	2	0	2
社 民	1	1	2
みらい	1	0	1
諸派・無所属	8	6	14
合 計	125	123	248

表は「社会保障料改革と副首都経済圏を、公明の斎藤代表は「減税も給付も行う」、国民の玉木代表は「手取りを増やす夏に」、共産の田村委員長は「減税が一番の物価高騰対策」、れいわの山本代表は「まずは消費税の廃止」、参政の神谷代表は「日本人ファーストで」、保守の百田代表は「食品の消費税を0%に」、社民の福島党首は「食料品の消費税即

時ゼロを、みんなでつくる党の大津党首は「助けを求めた人が守られる社会を」、N党の立花党首は「不法移民は追い出す」、再生の石丸代表は「教育最優先」、チームみらいの安野党首は「テクノロジーで変える」と訴えた。

自民は序盤から32ある改選1人区で接戦がめだち、無党派層の動向がカギを握る中盤には東北での全敗予想や序盤



「自民1強」の時代は過去の話し 政権与党への不満が他党に

第27回参議員選挙が投票票され、自民、公明両党は改選66議席から大幅に減らし47議席に。非改選の75議席と合わせて122議席となり、過半数を割り込んだ。

参院定数248のうち、改選の124議席（選挙区74、比例区50）に、東京選挙区の補欠選挙（欠員1）を合わせた125議席が争われた。7月3日公示され、選挙区と比例代表にあわせて522人が立候補。今回の選挙は、自公が衆議院で少数与党となる中、参議院で与党側が非改選の議席とあわせて過半数を維持できるか、野党側がそれを阻止できるかが焦点となり、事実上の選択選挙の熱い17日間がスタート。喫緊の課題となっている物価高対策を最大の争



参政党神谷宗常代表

点に、公約に現金給付を掲げる与党と消費税減税を訴える野党の双方が互いの「ばらまきだ」として批判の応酬を繰り返した。

自民の石破総理大臣は「物価上昇を上回る賃金上昇を、立民の野田代表は「責任ある減税を果たす」、維新の吉村代

国民民主党玉木雄一郎代表



で先行していた岡山や熊本でも接戦に持ち込まれ、自公過半数は微妙に。和歌山の応援演説で鶴保庸介衆院議員が「運のいいことに能登で地震があった」と発言し、大きな波紋を呼び逆風となる。

先の都議選で国民と参政が初めて議席を獲得。特に知名度の点ではまだまだの参政の善戦は世間に大きなインパクトを与えた。その勢いのまま、今回すべての選挙区に候補者を立てた結党から5年の参政党は今回、台風の目となった。

政権与党への不安、不満がキーワードとも言われた今回、若者の不安に端的に答える国民、参政が支持を拡大。国民



自由民主党石破茂首相

立憲民主党野田佳彦代表

は「最後の3日間が勝負だ」。参政は「1、2、参政党。20議席ください」と意気軒昂。自民の石破人気は低く、野党も一本化できず、投票先を最後まで決められなかった無党派層や保守票が参政や国民に流れていった。投票率の高さも参政、国民に有利に動いた。

野党は昨年の衆院選に続き、